

湯沢翔北高雄勝校・実務コース



測量用機器の説明を受ける生徒たち

測量の技術、面白い

2年生、初の実技授業

湯沢市の湯沢翔北高校雄勝校・坂本寿季校長、37人は、本年度、2年生の実務コースに「測量」の科目を設けた。

初めての実技の授業が18日にあり、生徒7人が機械を使って技術を学んだ。

この日の講師は雄勝建設業協会（高嶋伸夫会長、22社）に加盟する小野建設（羽後町の小野立さん39と、和賀組（同市）の小野寺健太さん30）のグラウンドでの授業で生徒は、光を照射して距離を計測する機器に触れたほか

の基本、身近な存在だということを知って「なぜと声がかけていた。」

（小林智恵）

雄勝校は地域に貢献する人材の育成を図ろうと、2年生に実務コースを設けた。測量と福祉の2科目があり、生徒が選択して履修する。原則として毎週水曜日にはコマ設定されている。

測量の科目では教諭による授業のほか、協会加盟社の社員らが月1回のペースで実技を指導する計画。今後は工事現場の見学も予定している。

昨年度に職場見学で市内の建設会社を訪れ、建設業界に興味を持つと測量の科目を選んだという見田優和さんは「のぞくだけで距離を測れる機械があることを知り驚いた。地元の建設会社への就職を考えており、しっかりと勉強したい」と話した。

協会は2月、授業に役立ててもらおうと測量用資機材として4.4点（20万円相当）を高贈した。協会は「建設業界を志す生徒が増えることを期待している。地元企業の担い手に



傾斜がある地面の高低差の測量にも挑戦した